第５７期（２０２２年度）事業報告書

― 目　次 ―

Ⅰ. 音楽教育事業

1. ヤマハ音楽教室・ヤマハミュージックレッスンの展開及び音楽指導者の育成　1頁

2. 検定制度　6頁

3. コンサート・コンクール等の開催　7頁

Ⅱ. 音楽研究活動　11頁

Ⅲ. 音楽支援事業　12頁

2023年6月

一般財団法人ヤマハ音楽振興会

第５７期（２０２２年度）事業報告

当財団の活動は、幼児・児童・青年及び成人各層のために、豊かな人間性涵養の基盤となる音楽に関する教育活動の基礎的諸問題を探求し、また、その普及を推進して広く社会教育の振興に資するとともに、あわせてわが国及び諸外国における音楽文化の向上に寄与することを目的としています。
当年度は、この目的に沿って、下記の事業を推進しました。

Ⅰ．音楽教育事業

1．ヤマハ音楽教室・ヤマハミュージックレッスンの展開及び音楽指導者の育成

音楽教育の一層の充実発展を図るために、当年度は下記の事業を推進し、音楽指導者の資質及び指導力の向上に努め、音楽教育の普及及び活動の促進を図りました。

(1)ヤマハ音楽教室・ヤマハミュージックレッスンの展開

当財団が実践している音楽教育は、その基本理念を「すべての人々が持っている音楽性を育み、創造的な音楽能力を養う」ことに置き、1954 年以来 60 年以上に亘って国内外で展開しています。
子どもの音楽教室として親しまれている「ヤマハ音楽教室」をはじめ、中・高校生から成人まで幅広い層を対象に音楽の楽しさを提供する「ヤマハミュージックレッスン」も広く展開し、また、海外においても、1965 年のアメリカでの開設以来、各国に広がり、現在では 40 以上の国と地域で展開しています。
当年度は、以下の規模となりました。

		会場数	講師数	生徒数
国内	ヤマハ音楽教室（子ども）	2,300 会場	6,700 名	214,000 名
	大人・シニア	1,200 会場	4,700 名	95,000 名
国内計		2,400 会場	9,600 名	309,000 名
海外計		1,300 会場	8,000 名	144,000 名

(a)ヤマハ音楽教室
2016 年 5 月より導入した児童期コース再編において 2019 年に全てのステップ導入が完了し、顧客価値観の変化に対応したコースとして「確かな演奏力と豊かな音楽表現力」が育まれる内容として着実に教育成果を上げつつあります。しかしながら、今年度も新型コロナウイルスの感染状況による地域ごとのレッスン休講および生徒欠席が続きました。出席できない生徒に対しては、自宅学習用動画や学習アプリを活用して家庭学習可能な環境を継続提供しています。また、オンライン受講が可能な生徒に対しては、レッスン会場あるいは講師宅からのリアルタイム配信による受講手法も整備しつつあります。同じく昨年度に策定した感染防止ガイドラインを状況に即して随時改訂を行い、教室におけるクラスター発生防止の取り組みや文科省の歌唱基準に則った歌唱指導など万全の対策を講じてまいりました。

(b)大人・シニア（ヤマハミュージックレッスン、青春ポップス）
新型コロナウイルスまん延により大きなダメージを受けた 2 年間から、回復の兆しを見せた 2022 年度となりました。特に、飛沫や楽器を介した他者との接触による感染イメージが薄い鍵盤楽器（ピアノ、エレクトーン）のレッスンでは、コロナ前の水準まで戻りつつあります。一方で、都市部を中心とした会社帰りのレッスン需要はテレワーク定着による環境変化で厳しさが継続しています。自宅で受講可能なオンラインレッスン展開を進めるなど、休会者、退会者へのレッスン復帰の働きかけを強化してきました。

(c)海外のヤマハ音楽教室

新型コロナウイルス影響長期化・中国でのゼロコロナ政策により教室閉鎖が続き、引き続き生徒数は低迷しました。下半期より規制が各国で徐々に緩和され、オンラインによるレッスン・グレード試験の対面実施への復帰が進んでいます。海外渡航が困難な状況が継続するなか、アジア生徒演奏力向上のため欧米の音楽大学教授によるディスクラビアを活用したリモートマスタークラスを初めて実施しました。また、生徒の学習成果発表の場として、10 の国と地域から 15 組の生徒が集うオンラインコンサート「Yamaha International Highlight Concert 2022」を 2022 年 12 月にヤマハ公式 YouTube チャンネルで公開しました。

(d)シニア向け歌コース「青春ポップス」

気軽に音楽活動を楽しむ「青春ポップス」は、コロナ影響から回復の兆しを見せた 1 年間となりました。シニアを対象とした歌唱中心のレッスン内容のため、レッスン室内のパーテーション設置、受講時のマスク着用など徹底し、安全安心感の創出が奏功しています。

(2)新規ソフトの開発

ICT や Web 等を活用し、楽器専修者が憧れるミュージシャンの演奏技術を学ぶソフト「Musician's Creativity Lab」は、通算会員登録数 6,300 名、有料利用が 1,500 名を超えました。 楽器初心者からスキルアップ希望者向けのオンラインサービスサイト「MUSIC AVENUE」では楽譜・音源聴き放題サービスを展開し、42,200 曲の各種レパートリーデータ、ヤマハミュージックレッスンの教材データ配信により会員数 15,800 名、有料会員は 170 名となりました。同サイトにてヤマハ音楽振興会が直接お客様にサービスを提供するオンラインプログラム「セッションルームオンライン」は、2022 年 8 月システムリニューアルとともにトライアルをスタートしました。これまで音楽教室に通ったことがない方やご自宅で音楽を楽しみたい方を対象に、イベント型のオンラインコース「ドレミおんらいん」(0-2 才の親子対象)、「リズム de リフレッシュ」(60 歳以上のアクティブシニア対象)に加え、新たにプライベートレッスン(ウクレレ、アコースティックギター、ピアノのオンライン個人レッスン)を加えた3つのプログラムを展開中です。音楽を通して乳幼児の非認知能力の育成を支援する幼稚園・保育所向け正課ソフト「おと♪はぐ」は、全国 33 の園で展開し 2,000 名の園児が参加しています。

［Musician's Creativity Lab］

［MUSIC AVENUE:オンラインレッスン］

［おと♪はぐ］

(3)ヤマハ音楽院の展開

ヤマハ音楽院では、音楽教室在籍生徒や卒業生がより深く音楽を学べる場として、質の高い音楽教育を展開しました。

(a)ヤマハマスタークラス(ピアノ特別コース)

クラシック様式のピアノ演奏を中心に、優れた資質や才能を持つ生徒を対象に、より高度な教育機会を提供します。ピアノ特別コースには生徒 5 名が在籍し、今年度開催の下記の外部コンクールにて入賞を果たしました。

◆第 24 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA
中学生部門　　太田朝日さん　　金賞受賞

また 57 期よりカリキュラム、入会経路、体制(スーパーバイザーを招聘)について変更を行い、ラルフ・ナットケンパー教授(元ドイツ・ハンブルク大学)をスーパーバイザーとして招聘し、集中レッスンを年 4 回行いました(オンライン含む)。

［スーパーバイザー(ラルフ・ナットケンパー教授)による集中レッスン］

(b)ジュニア創作研究コース

専門家による創作(作曲)レッスンにより、自作曲のクオリティー向上を目指します。全国 50 会場で展開し、約 300 名の生徒がコロナ禍の中、対面レッスンに加えオンラインレッスンや添削レッスン等、様々なレッスン形態で年間を通して創作を学びました。

今期はオンラインレッスンのみの創作研究コースを展開し、6 名の講師の下、50 名の生徒がレッスンを受講しました。

(4)ヤマハ音楽教育システム講師の育成

2021 年度に発足した講師自身の自己啓発によるスキルアップの支援を目的とした ICT を活用した講師ネットワーク「Yamaha Music Teachers' Association」(YMTA)を介し、指導情報や自己啓発に関する勉強会、講習会などをオンライン中心に実施し、ヤマハ音楽教室の品質向上に努めました。

また、講師フォーラム、指導者表彰などの顕彰制度を企画・実施し、指導力強化及びモチベーション向上の機会提供を行いました。

主な施策の内容は以下の通りです。

(a)講師資格取得試験

当年度は 6 月と 10 月に、東京・大阪の 2 会場とオンライン会場(希望制)での試験を実施しました。151 名がエントリーし、91 名が合格しました。

(b)新講師説明会

稼働前にシステム講師としての基礎的指導力を身につけることを目的として、2022 年 11 月～2023 年 4 月に、第 1 次説明会～第 4 次説明会を開催し、71 名が参加しました。レッスン実習など指導法の実践については従来通り対面での説明会を実施し、コース概要、テキストカリキュラムなど座学に関する内容はオンライン説明会にて伝達しました。先輩講師のレッスン見学なども併用し、5 月からスムーズにレッスンが行えるよう体系的に説明会を実施しました。

(c)YMTA を介した自己啓発支援(勉強会・講習会等)

講師の自己啓発支援を目的に、YMTA からの要望・意見を踏まえ、聴講型・参加型等さまざまな形態の講師勉強会及び講習会等を企画し、全国企画として年間 18 本(2 万名参加)、エリア企画として 91 本(延べ 5,600 人)をオンラインを中心に実施しました。

また、今年度ライセンス更新対象講師である 5 年次・10 年次・15 年次・40 歳・45 歳・50 歳・55 歳更新の講師を対象に、更なる指導レベル向上を目的に、指導法/演奏指導、レッスン拝見シリーズ、年次座談会などオンライン配信を 16 本企画実施し、延べ 5,800 名が受講しました。

(d)講師フォーラム

2023 年 1 月に、講師自己啓発及びリフレッシュ施策の一つとして、ヤマハ講師フォーラム 2023 を開催しました。「つながる CONNECT」をテーマに、専門家による講演、教室に関わるディスカッション、音楽家によるライブ演奏、選抜グループによるライブをはじめとする講師参加企画など全 12 プログラムをオンライン配信し、講師延べ約 10,000 名が視聴・参加しました。

(5)ヤマハミュージックレッスン(大人)指導者の育成

ヤマハ音楽教育システム講師同様、当年度より講師自身の自己啓発によるスキルアップの支援を目的とした「Yamaha Music Teachers' Association」を介し、グループミーティングや勉強会、講習会などをオンライン中心に実施し、ヤマハミュージックレッスンの品質向上に努めました。

(a)講師資格取得試験

ヤマハミュージックレッスン講師の認定～育成を目的として、当年度は7月と1月に、全国 5 地区にて試験を実施しました。214 名が受験し、64 名が合格しました。

(b)新講師説明会

稼働前に講師としての基礎的指導力を身につけることを目的として、2022 年 8～11 月、2023 年 2～4 月にかけて、新講師 1 次説明会～3 次説明会を開催し、64 名が参加しました。レッスン実習などの指導法の実践、コース概要、テキストカリキュラムなどに関する概論を対面とオンラインのハイブリッド形式の説明会にて伝達しました。また、先輩講師からのアドバイスを受けるアドバイザー講師制度も新たに導入し、スムーズにレッスンが開始できるよう新講師のフォロー対応を強化いたしました。

(6)ピアノ指導者の育成

全国のピアノ指導者の資質及び指導力向上を目的として、ピアノ個人レッスン指導者のためのサポートシステム、PSTA(piano-study teachers' association)を展開し、当年度は、約 8,000 名のピアノ指導者に対して、以下の講座、情報等の提供を行いました。

(a)インターネットを活用した各種講座

インターネットを活用したピアノ指導者向けオンデマンド音楽講座を開催し、当年度は延べ 16 タイトルの新講座を実施しました。その他、常設講座は約 449 タイトル。

(b)最新情報の発信と指導情報等の提供

PSTA ホームページに指導者専用ページを設置し、メソッド活用法などの指導者情報をはじめ、全国の指導者同士で情報が交換できる掲示板、機関誌や誌上講座など、様々なコンテンツを提供し、その充実を図りました。

(7)一般音楽指導者のための各種音楽講座

音楽指導者の音楽力及び指導力の向上を目的に、全国の当財団直営音楽センターを中心に各種音楽講座を実施しました。

(8)音楽教育ソフトの制作・出版

ヤマハ音楽教室並びにヤマハミュージックレッスンの音楽レッスン等、当財団の音楽教育活動必要な各教科の教材を制作・出版し、ヤマハ音楽教室の現行の音源・動画教材の配信を完了しました。また、教材の一部は、楽曲配信システム「れぱナビ」でも配信しました。さらに新コースの教材制作に着手しました。

(9)エレクトーン音楽の普及

音楽教室においてエレクトーンを使用することにより教育成果を最大限に引き出すため、YMTA 活動の一環としてエレクトーンをテーマとした講師向けの各種講習・勉強会を実施しました。

《勉強会テーマ例》

・2 年目、5 年目若手講師対象エレクトーン指導スキルアップ
・児童期指導でのエレクトーン活用法
・児童期コースでのエレクトーン指導
・大人のエレクトーン講師座談会
・れぱナビ エレクトーンアンサンブル楽譜活用法 など

先期から引き続きエレクトーン諮問委員会は「エレクトーン演奏人口増に向けた教育成果の再定義」をテーマに継続。エレクトーンの楽しみ方の実態エレクトーン生徒対象アンケートを実施し、趣味層の生徒のレッスンのあるべき姿を検討しました。

「ヤマハ講師フォーラム 2023」内「廣津留すみれバイオリンリサイタル」では、伴奏をエレクトーンプレイヤー渡辺睦樹氏に依頼。伴奏楽器としてのエレクトーンの有効性をシステム講師、YML 講師に向けて訴求しました。

2. 検定制度

「ヤマハ音楽能力検定」(ヤマハグレード)は、音楽を学ぶ学習者・指導者等を対象に、自分の力を確かめながら、バランスの取れた音楽力を伸ばすことを目的として実施しています。

(1) 国内の受験状況

当年度は、全国各地で検定試験を実施しました。受験者数は以下の通りです。

	ピアノ	エレクトーン	指導	管、ドラム クラシックギター	基礎グレード
13～6 級	49,937	10,924	－	50	幼児科他
5～3 級	1,955	1,144	1,525	0	
小計	51,892	12,068	1,525	50	25,407
合計					90,942

※2 級検定は単に演奏技術の面だけでなく、音楽表現力等も含めた総合的な音楽力と演奏力を客観的に検定するもので、当年度は、下記の通り実施しました。

実施日	会場	種別	受験者数	合格者数
2022 年 7 月 30 日、31 日	東京	エレクトーン	14	4
2023 年 1 月 14 日、15 日	東京	ピアノ	14	2

(2) 海外の受験状況

海外の 29 の国と地域で検定を実施し、下記の受験者数となりました。

種別	受験者数
幼児科基礎グレード	7,390
学習者グレード(13～6 級)	35,360
指導者グレード(5～3 級)	1,350
海外合計	44,100

(3) ヤマハピアノコンサートグレード

ヤマハピアノコンサートグレードは、コンサート形式で試験を実施するグレード体系です。ステージでの演奏を通じて、“人前で表現すること”の歓びを実感しながら徐々にステップアップしていくことを目指しています。入門からディプロマまで 20 段階のグレードにわかれており、初級者から専門的に学んでいる学生や指導者まで幅広い層の方々が今習っている曲で受験することができます。

当財団は、各グレードに適した課題曲の選曲やアドバイザー認定を担い、ヤマハミュージックジャパンと共催の「上級・ディプロマ」は東京、大阪の 2 拠点で実施し、上級 77 人、ディプロマ 12 人が受験しました。

3. コンサート・コンクール等の開催

(1) ヤマハ・ガラ・コンサート 2022

ヤマハ音楽振興会が実践する音楽普及、教育活動で育まれる多様な創造性を様々に表現する、若き音楽家たちによるスペシャルコンサートを、以下の要領で実施しました。コロナ禍により前回 2020 年度は無観客でのオンライン配信にて行いましたが、今年度は感染症対策を講じた上で、3 年ぶりに東京にて有観客で実施をしました。またコンサート終了後には、BS 朝日によるテレビ番組「ヤマハ・ガラ・コンサート 2022 ～未来へつなぐ音楽の心～」が制作、放映されました。

開催日	会場	後援
9 月 11 日 （日）	オーチャードホール	ヤマハ株式会社 株式会社ヤマハミュージックジャパン

内容
【出演】 2021 年度ジュニアオリジナルコンサート(JOC)参加作品より 9 作品 ※海外 1 作品は、映像にて参加 ヤマハエレクトーンフェスティバル(YEF)2021 一般部門 第 1 位受賞者 第 6 回ヤマハジュニアピアノコンクール(YJPC) C 部門 第 1 位 受賞者 〈共演〉 ヤマハ吹奏楽団 （指揮:佐々木新平）

［ヤマハ・ガラ・コンサート 2022］

(2) ジュニアオリジナルコンサート

「ヤマハ音楽教育システム」で学ぶ 15 歳以下の子どもたちが、心に感じたことを曲にし、自ら演奏するコンサート「ジュニアオリジナルコンサート(JOC)」を、1972 年より世界各国で開催しています。2021 年には 50 周年を迎え、様々なシーンで「50 周年」を記念した活動を行いました。子どもたちのもつ無限の可能性を引き出し、その成長を促すための発表の場として広く支持されており、またこの活動から多くの音楽家が育ち、現在音楽界をはじめ各界で広く活躍しています。当年度は、以下の企画・コンサートを実施しました。

(a)JOCセレクション 2022

JOC店別コンサートでの推薦曲の中から選曲された約 100 曲を各エリア単位の録画会にて収録した映像に海外からの楽曲も加え、子どもたちの活きいきとした作品、演奏の数々をヤマハ JOC チャンネル※にて公開しました。今期からサムネイルの設定など、多くの方々がご覧いただきやすいコンテンツ制作を行っています。

［JOC セレクション 2022］

※「ヤマハ JOC チャンネル」（YouTube 公式チャンネル）
2020 年 11 月に開設。JOC の活動を含むヤマハの音楽普及活動を紹介しています。
⇒ チャンネル登録者数：6,400 人 690 本の動画を公開中(2023 年 2 月末現在)
https://www.youtube.com/channel/UCfCK02PDWqrJlroVCaFd_Pg

(b)YouTube・プログラムコンテンツ （音楽ヒーロー・ヒロイン 奏デンジャー）

ヤマハ音楽教室で学ぶ子どもたちのドキュメンタリー番組として 15 分・全 8 回を制作し放映しました。MC のヤマハ音楽教室での体験ロケ映像や、ヤマハ音楽教室出身で現在活躍中の“音楽家”の紹介をはじめ、「ジュニアオリジナルコンサート（JOC）2022」に参加をされた子どもたちの日常を、演奏映像とともに紹介しました。MC は今後の活躍がますます期待される俳優の小宮璃央さんと木原瑠生さんを迎え、番組オリジナルキャラクターの「ランラン」がお二人と一緒に楽しく伝えています。

［奏デンジャー Season2］

その他、『奏デンジャー外伝～「タイムカプセル 未来の私へ」』や「JOC チャンネル NEWS」等を制作。「ヤマハ音楽教室の生徒はどのように創造性を育むのか」をテーマに、教育成果の発信を時代に適応した形で行いました。

［タイムカプセル 未来の私へ］

［JOC チャンネル NEWS］

(3)ヤマハエレクトーンフェスティバル

子供から大人までを対象に日頃の学習成果披露およびエレクトーン演奏の楽しみを発信する場として、また演奏力・音楽力向上を目的としたコンペティションとしてソロ演奏部門・アンサンブル演奏部門の 2 つの部門で実施しました。(主催:㈱ヤマハミュージックジャパン、共催:ヤマハ音楽振興会)

小学生低学年／小学生高学年／中学生／一般の 4 部門で展開、「特約店大会」(ソロ約 9,000 名、アンサンブル約 26,000 名出場)にて推薦を受けた出場者が「地区大会」(ソロ約 1,300 名、アンサンブル約 1,100 組出場)にエントリー。更にソロ演奏部門では上位大会である「セミファイナル(公開選考会)」(240名出場)を経た出場者による最終ステージ「グランドファイナル」(50 名出場)を実施しました。

2022 年度は地区大会、セミファイナルともに有観客で行われ、グランドファイナルでは 3 年ぶりに海外出場者 7 名を加えた総勢 50 名の出場者により華やかなステージが展開されました。

(a)地区大会

開催日	会場
〔ソロ〕7 月～8 月 〔アンサンブル〕10 月～2023 年 1 月	全国 22 地区 全国 24 地区

(b)セミファイナル

開催日	会場
9 月 17 日(土)～19 日(月・祝) [東京]10 月 2 日(日)、〔大阪〕10 月 9 日(日)	全国 2 箇所(東京/大阪)

(c)グランドファイナル

開催日	会場
2022 年 12 月 3 日(土) ～4 日(日)	NHK 大阪ホール

(4)ヤマハジュニアピアノコンクール

学習と研鑽、および若きピアニスト育成の場として「第 7 回ヤマハジュニアピアノコンクール(YJPC)」を開催しました(主催:㈱ヤマハミュージックジャパン、共催:ヤマハ音楽振興会)。海外出場枠新設に伴うグローバル化を踏まえ、国内大会プロセスを見直すとともに、国際コンクールの選考プロセスに倣い、第 6 回より一部の選考に「映像審査」を導入しています。

ジュニア部門は、中学生以下のピアノ学習者を対象に、A 部門(満 8 歳以下)、B 部門(満 10 歳以下)、C 部門(満 12 歳以下)、D 部門(満 15 歳以下)の 4 部門で展開し、音楽のジャンルを問わないことや編曲演奏が含まれるなど、演奏曲の自由度や幅広さを特徴とし、一次選考(ヤマハ特約楽器店推薦者/個人エントリー:約 15,000 名出場)、二次選考(3,430 名出場)、セミファイナル(407 名出場)を経て、グランドファイナルに 46 名が出場しました。また、新設の海外エリアは、計 10 ヶ国からエントリー。各国での一次・二次選考を経て、セミファイナルには 52 名が出場、グランドファイナルへは 4 名が出場しました。

満 18 歳以下の資質ある若き演奏家の発掘・育成を目的としたユース部門は、映像審査、セミファイナルを経て、グランドファイナルへは 5 名が出場。残念ながら、第 1 位・第 2 位なしの結果となりましたが、表彰式終了後に設けた「個別講評」では、7 名の審査員から個別に講評を直接得ることができ、これから世界に羽ばたいていくための大きな財産となったことでしょう。

両部門とも、新型コロナウィルス感染症対策のため、第 6 回に引き続き無観客開催となりましたが、演奏表現力や創造性をより高いレベルで競い、熱演を繰り広げました。

(a)ジュニア部門 セミファイナル

エリア	開催日	会場
北海道	6 月 5 日(日)	札幌サンプラザ コンサートホール
東北	5 月 28 日(土)	常盤木学園高等学校 シュトラウスホール
首都圏・関東	6 月 11 日(土)、12 日(日)	ヤマハホール(東京)
東海	6 月 11 日(土)、12 日(日)	三井住友海上 しらかわホール
大阪	6 月 4 日(土)、 5 日(日)	住友生命 いずみホール
九州	5 月 28 日(土)	北九州市 響ホール

(b)ジュニア部門 グランドファイナル

開催日	会場
7 月 27 日(水)、28 日(木)	ヤマハホール(東京)

(c)ユース部門

大会名	開催日	会場
セミファイナル	6 月 18 日(土)、19 日(日)	ヤマハホール(東京)
グランドファイナル	7 月 29 日(金)	

Ⅱ．音楽研究活動

音楽振興の一層の充実発展を目的に音楽及び音楽教育に関する調査や研究を行い発表しました。

(1)ヤマハ音楽研究所　研究活動

研究テーマ	概要と発表
音楽体験が乳幼児の発達に及ぼす影響研究	先行研究で、乳幼児の音楽体験が社会性、言語発達に関連があることがわかっており、その内容を推し進め、特に言語発達との関連を詳しく研究することで、大きくは音楽経験が乳幼児の発達によい影響を与えるのではないか、という仮説を検証することを目指す。コロナ禍で延期となっていた追調査を乳児・幼児を対象に実施。 ＊共同研究者　玉川大学リベラルアーツ学部教授　梶川祥世
異年齢集団による音楽活動におけるインタラクション等の研究	幼児期異年齢集団の子ども達に対し、音への興味・関心をより促す新規開発教具「MYCAS(マイカス)」を通じた音楽体験を実施しインタラクション等効果検証を行う。12 月、日本認知科学会「認知科学」に論文採録 ＊共同研究者　神戸芸術工科大学 映像表現学科/大学院 芸術工学研究科 金箱淳一助教 駒沢女子大学人間総合学群心理学類　丸山慎准教授
グループレッスンの音楽的効能研究	グループ形態で音楽学習により習得される音楽能力について、科学的に検証することにより、グループレッスンをその特長の一つとしているヤマハ音楽教室の優位性をクローズアップすることを目指す。実験結果の分析進行中。 *共同研究者　神戸学院大学心理学部准教授　河瀬　諭 神戸大学人間発達環境学研究科助教　岡野真裕 東京音楽大学専任講師　渚　智佳
音楽が認知機能に及ぼす影響研究	高齢者を対象とし、ヤマハの音楽体操プログラムを用いた介入により、音楽が脳（認知）機能に及ぼす影響を明らかにする。コロナ禍で取り組んできた健常高齢者のリモートによる音楽体操の認知機能への効果研究は、国際ジャーナルへ 2 本の論文を投稿、うち 1 本は Dementia and Geriatric Cognitive Disorders EXTRA 誌へ掲載済。また、軽～中度の認知症者対象のリモートによる効果検証を実施、論文投稿に向け、データ分析中。 ＊共同研究者　東京都立産業技術大学院大学特任教授　佐藤正之 東京都立産業技術大学院大学助教　田部井賢一 株式会社脳活性総合研究所（クレディセゾングループ）
ヤマハ講師のスキル変化研究	ヤマハ講師のコミュニケーションスキルが稼働前から稼働後にかけ、どのように成長、変化していくのか、について科学的に検証することを目的とする。併せて音楽表現においての「伝えるスキル」についても検証し、コミュニケーションスキルとの関連性も含め分析継続中。 *共同研究者　神戸学院大学心理学部准教授　河瀬　諭 神戸大学人間発達環境学研究科助教　岡野真裕 東京音楽大学専任講師　渚　智佳
音楽レッスンを通して得られる非認知的能力に関する大規模調査	音楽レッスンを通してどのような非音楽的能力を子どもが身につけているか、特に非認知能力に特化した講師視点での調査は、論文を国際ジャーナルへ投稿、新たに英語圏・中国語圏の同様の講師対象の調査も実施、データ分析中。また、幼児期の音楽グループレッスンでの非認知能力の獲得に関し、他の習い事と比較することによる調査を継続、英語圏 4 ヵ国においても同様の調査を準備中。 *共同研究者　神戸学院大学心理学部准教授　河瀬　諭 KDDI 研究所　馬田一郎 青山学院大学教育人間科学部教育学科准教授　米田英嗣

(2)学術集会での研究発表および論文掲載

学 会 名	第 41 回日本認知症学会学術集会/第 37 回日本老年精神医学会
開 催 日	2022 年 11 月 25 日・26 日・27 日
研究内容	音楽体操オンライン版はワーキングメモリを向上させる

学会名・学術誌	日本認知科学会・認知科学 第 29 巻 第 4 号 (2022)
発 行 日	2022 年 12 月 1 日
論 文 名	音の生態学的事実についての教育:「集音」楽器による子どもの音楽活動の試み

(3)研究内容の発信

ホームページを通じ、音楽研究関係者から音楽指導者、一般の方まで多くの方に向け情報を発信しました。

◆ヤマハ音楽研究所サイト
活動概要、学会発表や論文掲載など研究発表のご案内を掲載

◆ON-KEN SCOPE
音楽と人を取り巻く多様な研究によって得られた研究成果を身近なテーマや視点とともにわかりやすく紹介

【当年度実績】
「創作の重視『ぷらいまりー/せこんだりー』」「鍵盤ソルフェージュの確立『ぷらいまりー』1978 年の改訂」「全体から部分へ『ぷらいまりー』1988 年の改訂」他 計全 5 記事掲載および SNS での記事紹介情報発信

【アクセス状況】
2022 年 3 月～2023 年 2 月 アクセス累計 129,262 セッション

Ⅲ. 音楽支援事業

1. ヤマハ音楽支援制度

本事業は、音楽学習者に対して、奨学金等の支給をはじめとした以下の支援を行うことを通じて、広く世の中に音楽の普及を推進し社会教育の振興に資するとともに、音楽文化の発展に貢献することを目的として実施しています。

オンラインによる授与式を実施(4 月)

■2022 年度新規採用者（音楽奨学支援 4 名）

森本 隼太
ピアノ

サンタ・チェチーリア音楽院

嘉屋 翔太
ピアノ

東京音楽大学

水越 菜生
ヴァイオリン

桐朋学園大学

平井 菜々子
ハープ

パリ地方音楽院

※所属は 2022 年 4 月現在

(1)音楽奨学支援

優れた音楽能力を有し、将来音楽界の第一線で活躍が期待できる方、あわせて、音楽と真摯に向き合い具体的な目標を持って取り組んでいる方への支援です。当年度は以下の支援を行いました。

	当年度支援実績
新規支給者数	4 名
総支給者数	9 名
年間総支給金額	21,600,000 円